

年頭のご挨拶

株式会社商工組合中央金庫 奈良支店 支店長 坪内洋之



新年あけましておめでとうございます。令和4年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。

まず、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、感染された方々や不安と困難の中におられる方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。また、医療従事者の方々をはじめ、社会基盤を支えている全ての方々に、心から敬意を表するとともに深く感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、わが国の中小企業は、秋口までは持ち直しの動きが続く製造業と、厳しさが目立つ非製造業という構図でありました。しかしながら、年末にかけまして、製造業では、部材不足の影響により自動車関連業種を中心に持ち直しが鈍化し、非製造業では、行動制限の解除に伴い飲食業・宿泊業などで回

復の兆しが窺える状況となりました。なお、世界的な資源価格や物流コストの高騰により仕入価格の上昇が続く、価格転嫁が困難な業種で収支が圧迫されているほか、コロナ禍で一時的緩和されていた人手不足感が、需要の持ち直しとともに、再び強まってきた点に注意を要するところであります。

本年のわが国経済は、感染症の再拡大防止が家計に影響し、景気回復のペースは他の主要国に比べ緩やかな状態が続くものと思われまます。個人消費に関しましては、GOTO事業の再開や給付金の支給といった経済対策のほか、人手不足感の強い業種を中心とした雇用増加・賃上げなどが実現していけば、持ち直しも期待されますが、高齢者を中心に、当面は感染症の再拡大防止を強く意識した慎重な支出行動が続くとみられるため、それらの効果は限定的なものになるでしょう。本格的な消費の回復には、効果的な治療薬の普及などにより、人々の感染症への警戒感が大きく後退することが不可欠であると思われまます。

本年の干支は、十干（じっかん）・十二支（じゅうにし）で言えば、「壬

寅（みずのえ・とら）」となります。「壬（みずのえ）」は、「妊（にん）」に通じ、陽気を下に妊（はら）む、すなわち「厳冬を耐えて内に蓄えた陽気で次代の礎となること」を表します。一方、「寅（とら）」は、「蟻（みみず）」に通じ、春の草木が生ずる、すなわち「豊穰を助けるミミズが土の中で動き、芽吹きが始まった状態」を表します。つまり、本年はコロナ禍という「厳冬」を乗り越え、春の芽吹きが始まる年になると期待できるのでないでしょうか。長く厳しいコロナ禍という「冬」を乗り越えた皆さまは、またひとつ大きな力を備えられることと思えます。春の芽吹きの中、皆さまの大きな花を咲かせるためのお手伝いをさせて頂く所存でございますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、奈良県中小企業団体中央会、並びに会員組合と組合員の皆さまの益々のご繁栄とご健勝をお祈りいたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。